

GOOD DESIGN AWARD 2024

2024年度グッドデザイン賞

審査委員チュートリアルブック

この度はグッドデザイン賞審査委員をお引き受けくださりまして誠にありがとうございます。
グッドデザイン賞では「よいデザインに込められた思想やしくみ」などを世の中に伝えていくと同時に、それらデザインから導き出される新たな可能性を発見・伝達することにより、次なる社会への推進役となるべく活動をしております。審査委員の皆様におかれましては、その立役者として審査のみならず当会が企画する様々な場においてお力添えいただきたいと考えております。

本書ではグッドデザイン賞の成り立ちや考え方、実際の審査の仕組みなどについてまとめております。ぜひご一読くださいますようお願い申し上げます。

目 次

1	グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール	4
2	審査委員のタスクとミッション	4
3	審査の考え方と方法	6
4	審査の詳細	7
	4-1. 基本的なルール	7
	4-2. 一次審査	7
	4-3. 二次審査	9
	4-4. 共有（発表と表彰）	14
	4-5. その他	14
5	審査委員会推薦	15

勇気と有機のあるデザイン

今、デザインの持つ「さまざまなモノ・コトをより良くする」力は、あらゆる場面や場所でさらに求められています。

かつてデザインは物理的な存在に対してのみ機能すると考えられていた時代がありました。しかし、今ではモノを生み出すプロセスや思考自体にもデザインが要求されます。とりわけグッドデザイン賞は一つの創作物を多種多様な断面から分析し、さまざまな分野の審査委員が共通のアウトカムを持ち議論を重ね審査を行う、世界的にもユニークなデザイン賞です。

グッドデザイン賞がいま探求するデザインとは、すべての人が直面する個々で少しずつ違う問題・課題に対して改善の力を与えてくれる存在であり、生活をよりいっそう美しくしてくれる活動であると考えます。それは、社会を単に一つの大きな集団として捉えるのではなく、実践的創造に関わる人々が解像度高く分析・分解することで、はじめて見出すことができるものです。

2024年度のテーマである「勇気と有機のあるデザイン」は、昨年度のフォーカス・イシューを編纂する過程で生まれました。デザインに関わる人が勇気を持って一歩踏み出し、しなやかに美しく、場面や場所に応じた有機的な考えと体制によって、アイデアを社会に実装していくこと。そうしたデザインの潮流をさらに探求し、さまざまな分野や部門から生まれるモノ・コトの、ときに大胆でときにささやかな、強いデザインを見つけたいと思います。

今年度も、よりよい社会を創り上げる「勇気と有機のあるデザイン」に出会えることを楽しみにしています。

2024年度グッドデザイン賞 審査委員長 齋藤 精一

状況を切り拓く力

今年もグッドデザイン賞が始まります。

昨年の審査会から見えてきた潮流から私たちが見出したテーマは「勇気と有機のあるデザイン」。

気候変動や大きな災害に脅かされる日々の暮らし。停滞感に包まれ、少しずつ、しかし確実に勢いを削がれていく経済、そして社会。世界の人々とともに共有できていたと信じていた良識は戦争・紛争に姿を変え、私たちに大きなショックを与えました。しかし、楽観的に未来は明るいと言いつらくなったこのような状況下でも「ものづくり」の過程を通して見えてくる人々の、より良い変化を望む力はとてもポジティブでまぶしく感じられました。

今、デザインに求められていることの一つに「状況を切り拓く力」があります。

停滞した状況に向かって声を上げる個人の勇気と強い意志でアイデアが提起され、それを受け止める形で企業や組織が有機的に手を組み、行動をともにして、社会に実装される大きなうねりへと発展させる。デザインと総称される活動にはそんな力があるのです。

私たちは創作者の描く事物が人々の暮らしに浸透してより良い変化を生み出すことを期待し、また同時にそれが自然環境や多くの動植物にとって過不足なくバランスする状態であって欲しいと願っています。社会に向けた大きな視野とともに、細部にこだわるものづくりへの執念にも出会いたい。

今年度もグッドデザイン賞を通して強い意思、多様な提言に触れられることを楽しみにしています。

2024年度グッドデザイン賞 審査副委員長 倉本 仁

デザインの力の向かう先

昨年、私は「デザインの力を信じているか」という問いをめぐってメッセージを書きました。今年は、そこから一步進めて「デザインの力の向かう先」について考えたいと思います。

2023年度のテーマは「アウトカムがあるデザイン」でした。そして、受賞作品全体の傾向、潮流から導き出されたのが、今年度のテーマである「勇気と有機のあるデザイン」。有機的に分野を超えてしなやかに連携しながら、勇気を持って踏み出す、そんな姿がイメージされます。その一步を踏み出す方向がどこに向かっているのか。それがとても重要です。

最初に踏み出す先が、果たしてより良い未来に向かう道につながっているのか。方向を間違えばそれは大いなる労力の無駄遣いになってしまう可能性もあります。私たちはたくさんの方々のアイデアを出し、デザインを決定します。それゆえに資源の無駄遣いと同じくアイデアの無駄遣いも見直すべきです。1人の人間が考えられる量は時間的、質的にも限界があり、デザインの力を最大限発揮し大きく歩を進めていくには、方向を正しく見定める必要があります。一方で正しき道とはどちらなのかという難しい問いもあり、それを見定めていくには、トライ&エラーを繰り返しながら模索していくしかないという事実です。

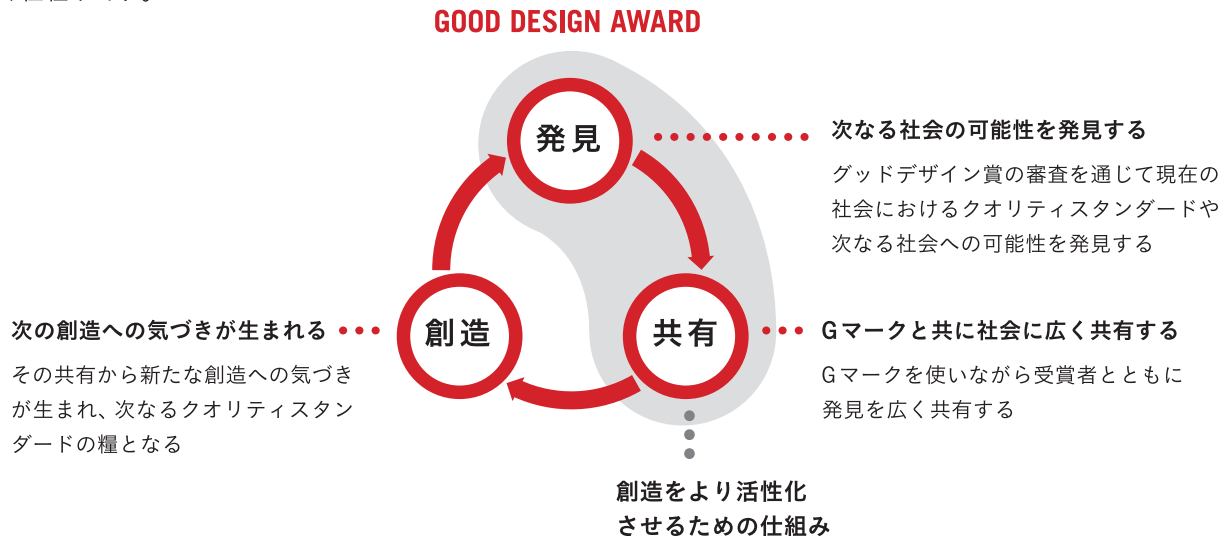
いずれにしても多くの労力をかけなければ正しき道を見つけられず、そこからまた沢山の労力をかけてデザインをし、やっとゴールを目指すしかありません。1人では限界はそこまでですが、多くの方々のトライ&エラーが共有できればもっと早くそして遠くにゴールを設定することができるはず。それがこの賞の意義だと考えています。

皆でアイデアを寄せ合い、そのプロセスを共有し、他の誰かのヒントになる—今年のグッドデザイン賞がそうした場になることを願っています。「勇気と有機のあるデザイン」をテーマに、デザインプロセスの中で、どのように困難に立ち向かい有機的に勇気を持って乗り越えたのか、ぜひ応募作を通じて共有していただければと思います。

2024年度グッドデザイン賞 審査副委員長 永山 祐子

1 グッドデザイン賞全体の仕組みとスケジュール

グッドデザイン賞は、様々な展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とした総合的なデザインの振興活動です。グッドデザイン賞は単に「よいデザインを選ぶ」のではなく、以下の3つの循環を通して応募者とともに協働することにより、次なる社会の創造へ繋げていく仕組みです。



グッドデザイン賞の種類と位置づけ



2 審査委員のミッション

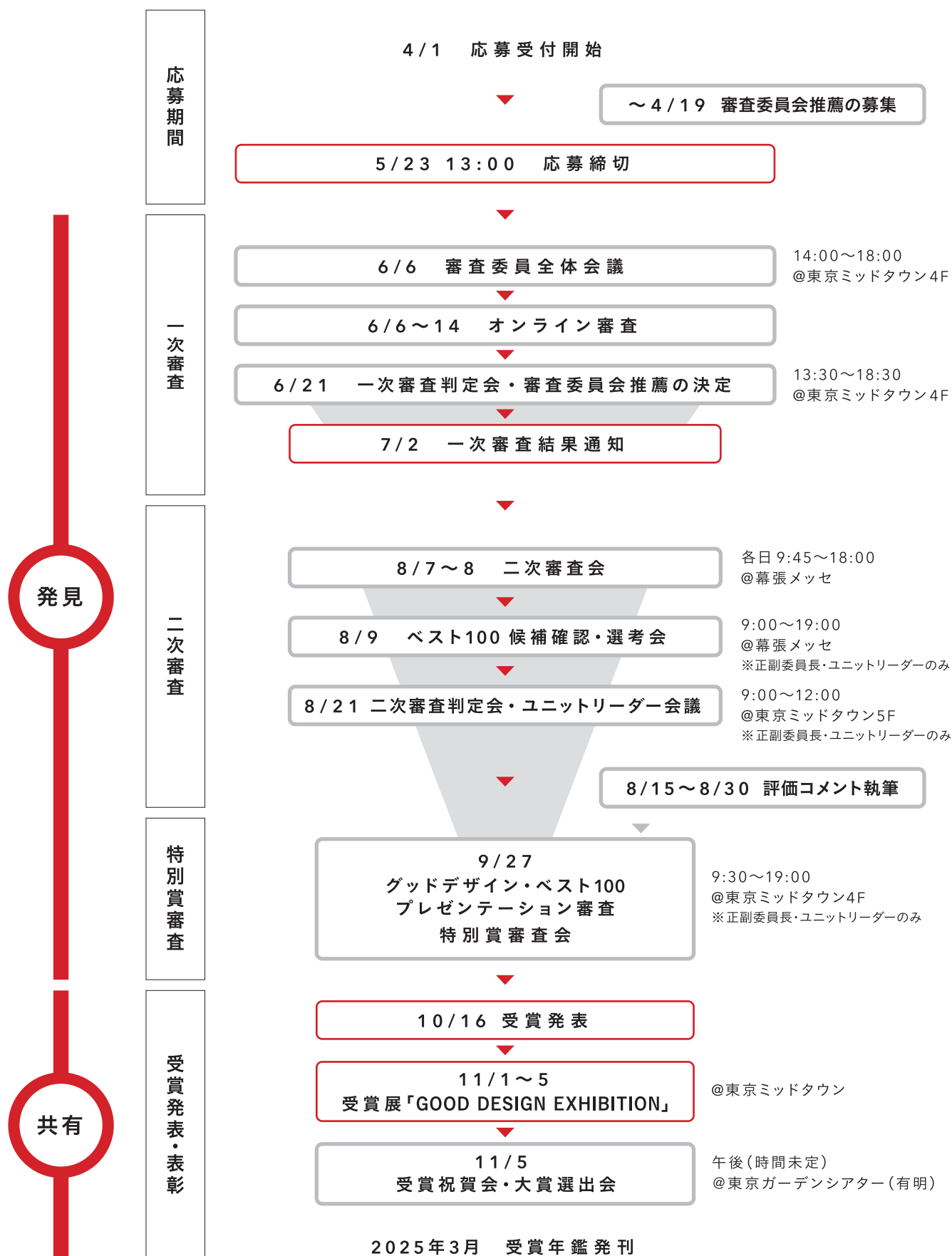
発見 = 審査

- グッドデザイン賞の審査（6～13ページ参照）
- 審査委員会推薦候補の推挙（15～16ページ参照）
- グッドデザイン・ベスト100 および 特別賞の審査（11～13ページ参照）
※リーダーのみ

共有 = 発表・表彰 ほか

- 審査の評価 および アドバイスコメントの執筆（14ページ参照）
- 受賞祝賀会 および 大賞選出会への出席（14ページ参照）

おもなスケジュール



3 審査の考え方と方法

【審査の基本的な考え方】

1. グッドデザイン賞ではデザインを「人と社会、自然環境との調和を常に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を描き実現化する行為」と考えます。
2. デザインに込められた思想やしくみが「今後の社会において起点となりうるものであるか？」を最重要視します。
3. 社会を推進することを目的に「今後の展開への期待や秘められた可能性」も含めて審査します。

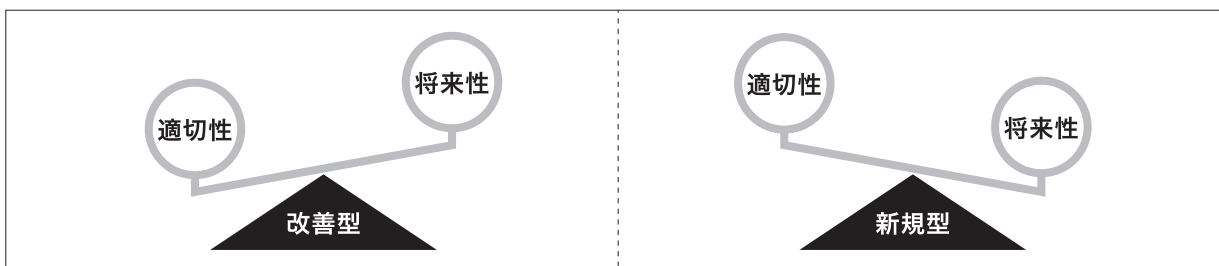
【審査の視点】

この基本的な考え方をもとに「人間」「産業」「社会」「時間」という4つの視点から応募対象を観察し、総合的に判断してください。

人間的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 使いやすさ・分かりやすさなど、ユーザーに対してしかるべき配慮が行われているか○ 安全・安心・環境・身体的弱者など、信頼性を確保するための配慮が行われているか○ ユーザーから共感を得るデザインであるか○ 魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するデザインであるか
産業的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 新技術活用や創意工夫によりたくみに課題を解決しているか○ 的確な技術・方法・品質で合理的に設計・計画されているか○ 新産業、新ビジネスの創出に貢献しているか
社会的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 新しい作法、ライフスタイルなど、新たな文化の創出に貢献しているか○ 持続可能な社会の実現に対して貢献しているか○ 新たな手法、概念、様式など、社会に対して新たな価値を提案しているか
時間的視点 <ul style="list-style-type: none">○ 過去の文脈や蓄積を活かし、新たな価値を提案しているか○ 中・長期的な観点から持続可能性の高い提案が行われているか○ 時代に即した改善を継続しているか

【審査のウエイト】

グッドデザイン賞に応募される対象には大きく分けて「十分な実績を積んだ改善型」と「全く新しい新規型」の2種類があります。改善型については「デザインの適切性」を重視し、新規型については「将来の可能性」を重視して審査を行ってください。ただし、新規型においてもデザインとしての品質や魅力を伴わないと判断する場合はグッドデザイン賞にはなりません。

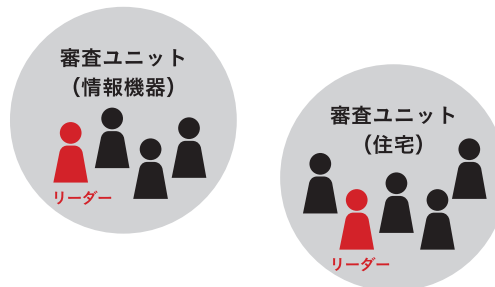


4 審査の詳細

4-1. 基本的なルール

1. 審査ユニット

グッドデザイン賞の審査は、1チーム4～6名からなる「審査ユニット」を組み、そのチーム毎に割り当てられた応募対象を審査します。それぞれの審査ユニットには取りまとめを行う「リーダー」をおきます。リーダーは審査委員長・副委員長が選任します。



2. 自身が関与した対象への審査介入禁止

審査委員長、審査副委員長、審査委員は、審査委員自身がデザインまたはコンサルティングした審査対象を審査することはできません。関連情報の提供を含め、その対象の審査に関わることを一切禁止します。

3. 守秘義務

すべての審査委員は、審査開始以前に主催者に守秘義務に関わる誓約書を提出し、審査対象に関わる機密情報ならびに審査経緯など、審査を通じて知りえた秘密情報を第三者に漏らすことを一切禁止します。

4-2. 一次審査

■ 審査委員全体会議

今年度の全体方針や具体的な審査方法、方針等を確認するための会議です。

お
願
い
事
項

1. 審査方針の策定

担当ユニットに応募された対象のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、審査の方針を策定してください。

2. ヒアリング審査実施方針の検討

審査委員会が必要と認める応募対象に関してのみに、説明ないしはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施します。ユニットとしてヒアリング審査を実施するか否か、実施する応募対象の選び方、実施の方法などについて検討し、一次審査判定会の際に決定できるよう準備をお願いします。

3. 審査委員会推薦対象の検討

審査委員会推薦候補のリストを確認し、一次審査対象を見た上で、さらに推薦候補があるかどうか、検討してください。

■ ウェブ審査

一次審査判定会に向けた個人審査です。期日までに「審査サイト」に個別でお伝えするIDとパスワードでログインしていただき、審査をお願いします。

1. 「○×」の評価入力（必須）

担当ユニットの応募対象情報を確認の上、審査方針および審査の視点と照らし合わせた上で、各応募対象に「○×」の評価を記入してください。

2. コメントの入力（任意）

「○×」の記入と併せて他の審査委員に対して伝達したいことがある場合は、その内容をコメント欄に記入してください。

■ 一次審査判定会

「二次審査として現品を審査する必要性のあるものを抽出すること」を目的に、一次審査の可否の判定を行う会です。

1. 一次審査の可否判定

リーダーを中心にディスカッションを行った上で、各応募対象の一次審査結果を確定してください。

2. ユニット移動対象の検討

応募対象のリストを確認した上で、「審査ユニットを移動させた方がよい」と判断できるものについては、移動予定先の審査ユニットと相談の上、その方針を決定してください。ただし、応募されたカテゴリは「重視して欲しい点に関する応募者からの宣言」でもあるため、なるべくこの意志を尊重してください。ユニット移動に関しては以下の基準をもとに行ってください。

A. 応募対象の内容および主旨が担当する領域と明らかに違うもの

B. 当該ユニットでは評価が期待されないが、他のユニットでは評価される可能性があるもの

3. 追加資料を求める対象、または特別な審査を行う対象の決定

ヒアリング審査や現地審査、または動画等による追加資料の確認など、特別な審査を行う必要が認められる応募対象を決定してください。

4. 審査委員会推薦対象の決定

審査委員会推薦候補のリストを確認し、リーダーを中心にディスカッションを行った上で、ユニットとして審査委員会推薦に選定する対象を4件以内で確定してください。

グッドデザイン賞の審査は「応募対象の現品を確認して判断する」ことを原則としていますので、一次審査は「明らかにグッドデザイン賞の水準ではないと確実に判断されるもの」のみを不通過としてください。判断基準は以下です。

【不通過判断基準】

1. グッドデザイン賞の理念から逸脱している

社会的な道義や倫理に反するものや社会的な誠実さに欠けるものなどについては不通過としてください。

2. 応募ルールに抵触する恐れがある

「2025年3月末までにユーザーが購入・利用できる」という応募条件等を明らかに満たし得ないと推測できるものは不通過としてください。

3. 価値や品質が明らかに低いと推測されるもの

品質や価値の程度が明らかに低いと推測されるものは不通過としてください。

■ 事務局による判定結果の確認

一次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。

審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議の上、審査結果を確定します。

4-3. 二次審査

■ 二次審査会

審査会場に設置された応募対象の現品（搬入が困難な対象は代替物）を確認し、グッドデザイン賞の合否判定を行う会です。

お願い事項

1. 二次審査の合否判定

二次審査を通過した対象は、審査確定会を経てグッドデザイン賞受賞内定となります。応募対象現品確認やヒアリング審査（後述）等を踏まえ、各応募対象の二次審査結果を確定してください。

2. ベスト100候補の選定

グッドデザイン賞では「未来を示唆するデザイン」として評価の高い受賞対象100件を「グッドデザイン・ベスト100」として公表し、この中から特別賞を選出します。二次審査会の結果を踏まえ、グッドデザイン・ベスト100候補の選出を行ってください。

3. アドバイスコメントを行う対象の抽出

応募者に対して今後の「気づき」を提供するため、その合否にかかわらず応募者に対してアドバイスコメントを伝達しています。アドバイスコメントを行う対象の抽出を行ってください。

4. アドバイスコメント・評価コメントの執筆担当決め

グッドデザイン賞を受賞したすべての対象について「どこがよいデザインであるか」を審査委員の評価コメントとして公開します。上述のアドバイスコメントと併せて執筆する担当の割り振りを行ってください。

5. ベスト100候補の確認および選定（リーダーのみ）

審査会3日目に審査委員長・副委員長、各審査ユニットリーダーによってベスト100候補の確認を行います。各リーダーは自身のユニットのベスト100候補について、選定理由を説明してください。その後、合議でベスト100を選定します。

審査方法

二次審査会では様々な特性を持つ応募対象の現品が設置されるため、審査ユニットによって適切な審査方法は異なります。リーダーを中心に審査方法を協議し、適切な方法で審査を行ってください。なお、審査においては必ず「合議によって合否の決定」を行ってください。以下に通常想定される審査方法を示します。

1. 応募対象の確認および個別投票

各審査委員は個別に応募対象現品またはその代替物と応募シートを確認し、優れたデザインと認める対象に投票を行います。

2. ヒアリング審査に向けた事前調整

審査2日目にヒアリング審査を実施する場合は、確認・質疑するポイント等について調整を行います。

3. ヒアリング審査の実施

指定の時間に応募者からの説明・プレゼンを受け、質疑応答を行い、応募対象への理解をさらに深めます。

4. 合議による合否の決定

個別投票結果およびヒアリング審査結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上で合否を決定します。

5. ベスト100候補の選定

二次審査会の結果を踏まえ、リーダーを中心にディスカッションを行った上でグッドデザイン・ベスト100候補の選出を行います。

二次審査会では応募対象の特性に合わせて様々な審査を行います。以下に示したものの以外であっても、必要な場合は自由に審査を設定できます。

1. ヒアリング審査

応募された対象についてより深く理解するため、審査委員会が必要とする対象を指定して、応募者に説明またはプレゼンテーションを求める「ヒアリング審査」を実施することができます。二次審査会2日目の実施を原則としますが、別途場所と時間を設けて実施することもできます。応募対象1件につき5分～15分の時間設定とし、件数に応じて調整します。応募者の希望や申請に基づく実施はありません。ヒアリングは、オンライン（zoom）で実施します。

2. 未発表審査

グッドデザイン賞では二次審査会の段階において開発途中（発売前等）の製品であっても応募することができます。応募者の希望があった場合、情報が漏えいしないように機密性の高い別室で個別に審査を行います。

3. 現地審査

現品の展示が困難な対象のうち、各審査ユニットの合議において「現地に行き、実際に確認をした方がよい」と判断されるものがあります。この場合、各審査ユニットより現地審査を応募者に要請し、実物を確認する審査を実施することができます。現地審査を実施する場合は二次審査期間内に応募者と調整を行った上で、実施します。

1. ベスト100候補の提出

ベスト100候補について、以下のルールに基づいて順位づけを行った上で「ベスト100候補連絡票」に必要事項を記載し、提出を行います。ユニットの2位までは、原則として必ずベスト100に入るものとします。

（記入方法）

リスト上位から「ベスト100に相応しいと思われる順」に「審査番号・応募対象名」を記載します。各審査ユニットから選出できるベスト100候補は8件を上限とします。必ず1位～8位の順位をつけてください。8件以上の候補をあげたい場合は、事務局を通じて正副委員長と協議することができます。

2. ベスト100候補の確認および選考会

二次審査会3日目に、審査委員長および審査副委員長、各審査ユニットのリーダーは、二次審査会場内に展示されているベスト100候補の現物確認を行います。

■ ベスト100 選考会 **リーダーのみ**

二次審査会において各審査ユニットで提出した「ベスト100 候補」をもとに、グッドデザイン・ベスト100を選定する会です。

お
願
い
事
項

1. グッドデザイン・ベスト100の選定

参加者全員のディスカッション、投票等により「グッドデザイン・ベスト100」を決定します。

ベ
ス
ト
1
0
0
の
選
出
方
法

グッドデザイン・ベスト100は以下の手順によって選出します。

1. 各審査ユニットにおける順位づけの確認・調整

事務局はベスト100選考会が開始される前までに、選考会会場の壁面に全審査ユニットのベスト100候補について、順位づけを順守した上で掲示を行います。各審査ユニットのリーダーは壁面に掲示されたベスト100候補を一覧し、全体のバランスを確認します。

2. 各ユニット候補の上位2件の確認と内定

全ての現物確認の終了後、全ユニットの2位までについてベスト100内定の確認を行います。このベスト100内定について異議のある場合には、挙手により申し立てを行い、合議を行います。異議の生じた対象については、合議後に挙手により採決を行います。票数が同数であった場合は、審査委員長の権限により決定します。

3. 第一回目投票およびラインナップの確認

上記「2」によって内定したものを除くすべての候補を対象に第一回目投票を行います。投票は1名あたり20件程度を上限とします。この際の上限值については、審査委員長が判断します。投票結果に基づき、事務局は仮に100件までの対象を得票数順に会場の壁面に掲示します。審査委員長、審査副委員長、リーダーは、ベスト100の全件を一覧し、「今年度のグッドデザイン・ベスト100としてふさわしいラインナップであるかどうか」という観点から検討し、ディスカッションを行います。

4. 第二回目投票およびベスト100全件の内定

「3」のディスカッションの結果、第一回目投票の下位20件程度と選外となったものを対象に第二回目投票を実施します。投票は1名あたり10件程度を上限とします。この際の上限值については、「4」と同様に審査委員長が判断を行います。

投票結果に基づき、得票数の高い順に総内定数が100件になるまで内定を行います。この時、ポーターライン上において得票数が同数となった場合は、ポーターライン上にある対象について再度投票を行い、ベスト100全件を決定します。この時、取り下げ等に備え、補欠候補も同時に選出します。内定対象について失格が生じた場合は、補欠候補を順次繰り上げ内定とします。

■ 事務局による判定結果の確認

二次審査判定会の結果について、事務局がその妥当性を確認します。
審議事項が生じた場合には、各審査ユニットで再度協議を行います。

■ 二次審査判定会・ユニットリーダー会議 リーダーのみ

二次審査会において各審査ユニットで出した審査結果について最終確認し、結果を確定結果を確定します。また、ベスト100についての情報共有を行います。

お
願
い
事
項

1. 二次審査の合否確認

各審査ユニットで出した合否結果を改めて見直し、その合否に間違いがないかを確認してください。また、他の審査ユニットの結果も閲覧し、それぞれにおいて異議がないかを確認してください。異議がある場合は、当該審査ユニット・リーダーと合議の上、合否を決定してください。合議において決着がつかない場合は、審査委員長・副委員長が最終的な判断を行います。これと同じ要領で事務局からの審議事項についても最終的な判断を行ってください。

2. ベスト100に関する情報共有

各審査ユニットから選出されたベスト100受賞対象について、選出された経緯やその受賞対象の評価ポイントなどを他の審査委員と共有してください。

■ 特別賞審査会

第一部：グッドデザイン・ベスト100プレゼンテーション審査 リーダーのみ

グッドデザイン・ベスト100に選ばれた受賞者によるプレゼンテーションを聞き、特別賞選考のために受賞対象についての理解を深めます。この審査は非公開で行われます。

お
願
い
事
項

1. グッドデザイン・ベスト100プレゼンテーションの聴講

ご自身のユニットおよび関連のユニットのベスト100受賞者によるプレゼンテーションを概ね25件程度聞き、質疑応答をしていただきます。

2. 他のユニット・リーダーとの共有

ご自身が聞いたプレゼンテーションの内容を、その場に不在だった他のユニット・リーダーの方々と共有します。

第二部：特別賞選考会 リーダーのみ

グッドデザイン・ベスト100に選定された対象の中から、さらに特筆すべき優れたデザインを特別賞として選定する会です。

お
願
い
事
項

1. グッドデザイン金賞の選出

投票および合議によりグッドデザイン・ベスト100の中からグッドデザイン金賞を選出します。

2. グッドフォーカス賞の選出

投票および合議により金賞以外のグッドデザイン・ベスト100の中からグッドフォーカス賞を選出します。

金
賞
等
の
選
出
方
法

グッドデザイン金賞・大賞候補・グッドフォーカス各賞は以下の手順によって選出します。

1. グッドデザイン金賞 第一回目投票

グッドデザイン・ベスト100を対象に以下の基準にもとづき1名あたり20対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

(選出基準)

概念や技術、品質等において、先進性と社会性を兼ね備えた、現在における極めて優れたデザイン (Best of Best) と認められるもの

2. グッドデザイン金賞の内定と第二回目投票対象の抽出

投票結果の「上位約10件」を目途に、ある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、金賞を内定します。また、「上位約30件」を目途にある程度票差のついている箇所をボーダーラインとし、第二回目投票対象とします。ただし合議の結果によっては得票数が低くても第二回投票対象とする場合があります。

3. グッドデザイン金賞 第二回目投票および内定

第二回目投票対象に対して1名あたり10対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。投票結果から金賞が20件になるラインをもって金賞内定とします。同率になった場合は合議の上、決勝投票を行い内定します。

4. グッドフォーカス賞候補の選出と投票

グッドデザイン金賞内定候補を除くグッドデザイン・ベスト100から各グッドフォーカス賞について以下の基準にもとづき1名あたり5対象程度を上限に投票を行います。この際の上限值については、審査委員長が判断します。

(各特別賞の選出基準)

グッドフォーカス賞[新ビジネスデザイン]

新たなビジネスモデルや新産業の創出、イノベーションの促進に寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

グッドフォーカス賞[技術・伝承デザイン]

高度な技術や技能によって実現された、特に優れたデザインの製品であると認めるもの

グッドフォーカス賞[地域社会デザイン]

地域社会の持続的発展や経済の活性化に特に寄与するデザインと認めるもの

グッドフォーカス賞[防災・復興デザイン]

自然災害への防備または自然災害による被害からの復興に対して寄与する優れたデザインとして特に認めるもの

なお、上記以外の賞を新設する場合があります。

5. グッドフォーカス賞の内定

投票結果の「上位3件」をボーダーラインとし、審査委員長・副委員長の了承をもってグッドフォーカス賞を決定します。

4-4. 共有（発表と表彰）

■ 評価コメント・アドバイスコメント執筆

応募者や一般生活者へ今後に向けた「気づき」を提供することを目的に公開する評価文です。それぞれのデザインに見出された価値や可能性を社会に伝え共有していくための重要な情報となります。二次審査会時に各審査ユニットで割り振られた担当分に対してコメントの執筆をお願いします。

お
願
い
事
項

1. 評価コメントの執筆

1 受賞対象につき 200 字程度の評価コメントを執筆してください。評価コメントの多くは受賞した企業のプレスリリースやその他広報にも使用され、またグッドデザイン賞のウェブサイトに掲載され広く公開されます。

2. アドバイスコメントの執筆（任意）

1 対象につき 200 字程度のアドバイスコメントを執筆してください。コメントは応募者にのみ伝達されます。

■ 受賞祝賀会および大賞選出会

グッドデザイン賞受賞者の受賞をお祝いする会です。受賞祝賀会と同時開催される大賞選出会では、審査委員・受賞者・一般からの投票により、グッドデザイン大賞が決定します。

お
願
い
事
項

1. 受賞祝賀会への出席

受賞者に対して祝福の言葉やアドバイス、コメントなどをお話しいただき、受賞者に対して新たな「気づき」を提供できるよう、ご協力をお願いいたします。

2. 大賞候補への投票

グッドデザイン大賞への投票を指定の方法で行ってください。投票方法の詳細は、別途お知らせいたします。

4-5. その他

■ その他 特記事項

1. 審査委員長判断による方法の変更について

上述したプロセスおよび方法について何らかの問題が生じた場合、または他の最適な方法が提案された場合など、現場の状況を鑑みた上で審査委員長の判断により変更が行われる場合があります。

5 審査委員会推薦

審査委員会推薦制度は、よいデザインを顕彰するために審査委員会の見識をもって応募を呼びかける制度として、2019年度より実施しています。

【審査委員会推薦のルール】

1. 推薦可能な対象

グッドデザイン・ベスト100に選定されうる優れたデザインであると審査委員会がその見識をもって推薦できるもの。ただし、審査委員自身がデザイン・コンサルティング等関与した対象を自薦することはできません。

2. 推薦された対象の取り扱い

「一次審査判定会議」において、推薦された対象を審査する審査ユニット内で検討し、当該審査ユニットで審査委員会推薦に値すると判断される対象を4件以内で選定します。審査委員長・審査副委員長は、各ユニットから挙げられた候補を確認し、「審査委員会推薦」対象を確定します。

3. 推薦により応募された対象の審査

審査委員会推薦となった対象について、事務局より応募勧誘を実施します。推薦により応募された対象は一次審査を通過したものとみなし、二次審査会から参加します。

なお、推薦により応募された対象であっても、二次審査は通常に応募対象と同等に審査します。

4. 費用

推薦により応募された対象は、二次審査料および受賞パッケージ料を免除します。

(展示の特殊なオプションを除く。)

審査委員会推薦スケジュール

